

宮城県内の旧石器時代遺跡

- ① 山田上ノ台遺跡
- ② 北前遺跡
- ③ 青葉山遺跡
- ④ 住吉遺跡
- ⑤ 上ノ原山遺跡
- ⑥ 富沢遺跡
- ⑦ 座散乱木遺跡
- ⑧ 馬場壇A遺跡
- ⑨ 中峯C遺跡
- ⑩ 栗菜山麓遺跡群
- ⑪ 高森遺跡

仙台市文化財パンフレット第26集

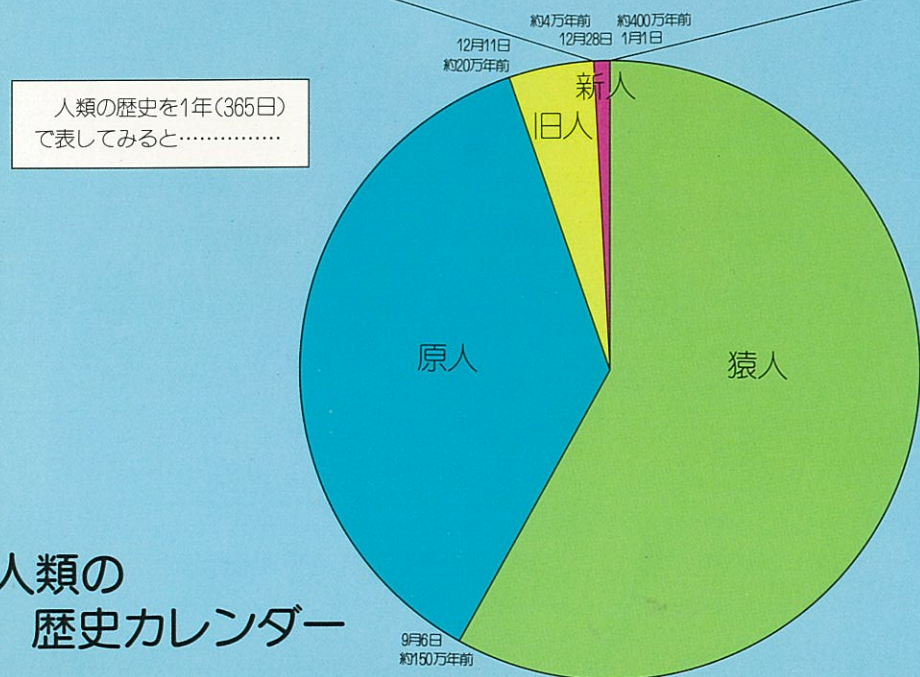
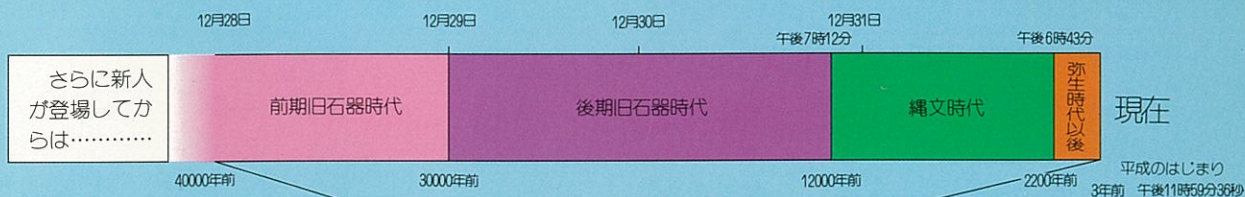
氷河時代を生きた人々

— 旧石器時代展 —



約2万年前の樹木

富沢遺跡



人類の歴史カレンダー

仙台市教育委員会

◆氷河時代とは

今からおよそ1万年前までは氷河時代とよばれ、寒い気候の氷期と暖かい気候の間氷期が繰り返されていました。その中でも最も寒い時期が2万年前ごろにおとずれました。気温は今よりも7～8度も低く、東北地方には今の北海道北部のような針葉樹の多い林が広がっていました。寒い氷期には海面が低くなり、日本列島はアジア大陸と陸続きになることもありました。こうした陸の橋を渡って、ナウマンゾウやマンモス・オオツノジカなどの大型の動物が日本にやってきたようです。

◆氷河時代の生活

氷河時代の人々は、ナウマンゾウやオオツノジカなどの今では絶滅してしまった動物たちを追いかけて、移動する生活をしていました。生活の大部分は、食料をとることと石器などの必要な道具をつくることにあてられました。動物をとるためのおとし穴を掘ったり、炉をつくったり、時には住居もつくりました。食料は動物の肉が中心でしたが、もちろん、木の実や草の根・球根なども食べていたことでしょう。また、蒸し焼きをするために川原石を集めた場所もつくりました。人が死んだときには、穴を掘って手厚く葬りました。

◆人類の進化

アフリカのタンザニアにあるオールドバイ渓谷^{ワルカ}から、300万年以上も前の猿によく似た動物「猿人」の骨が発見され、人類の出現がこの頃までさかのぼることがわかりました。猿人は直立して歩き、石器を使って生活していたようです。その後、原人、旧人、新人と現代の人類に近いものへと進化してきたと考えられています。

◆ 仙台市内の旧石器時代の遺跡

仙台市内では現在までに、旧石器時代の遺跡が6ヶ所見つかっています。その中には、前期旧石器時代の存在を証明した山田上ノ台遺跡、後期旧石器時代の森と人々の生活のあとが見つかった富沢遺跡など、貴重な遺跡が含まれています。ここでは、これまでの調査を通してわかったことをもとに、市内の旧石器時代の遺跡を紹介します。



①山田上ノ台遺跡

(太白区山田)

名取川北岸の大地にある遺跡です。昭和55年の調査によって、前期旧石器時代と後期旧石器時代の石器が見つかりました。座散乱木遺跡とともに、日本の歴史が前期旧石器時代までさかのぼることを証明した貴重な遺跡です。

②北前遺跡

(太白区山田)

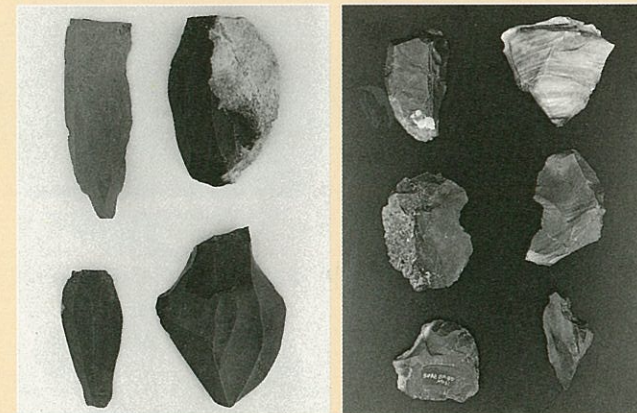
山田上ノ台遺跡の北側にある遺跡です。昭和56年の調査によって、山田上ノ台遺跡に続いて前期旧石器時代の石器が見つかりました。石器の時代は、山田上ノ台遺跡と同じくらいと考えられます。



③青葉山遺跡

(青葉区荒巻)

仙台市内でも最も古い台地にある遺跡です。昭和59年の東北大学による調査で、市内では最古と思われる石器が見つかりました。また、動物をとるためのおとし穴らしいあとも見つかっています。



④住吉遺跡

(泉区七北田)

七北田川北岸の台地にある遺跡です。昭和60年の調査によって、約3万年前の前期旧石器時代の石器と、後期旧石器時代の石器が見つかりました。ここで見つかった石器は、泉区では最古のものと考えられます。

⑤上ノ原山遺跡

(太白区茂庭)

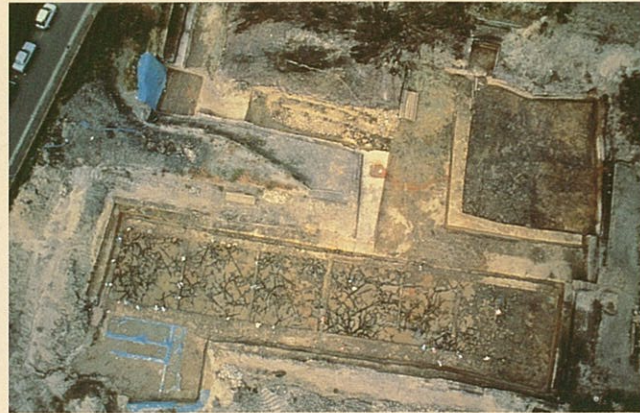
名取川北岸の台地にある遺跡です。これまでは縄文時代の遺跡と知られていましたが、平成2年と3年の調査によって、新たに旧石器時代の石器が見つかりました。



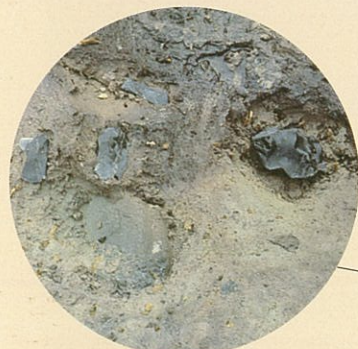
⑥富沢遺跡

(太白区長町南)

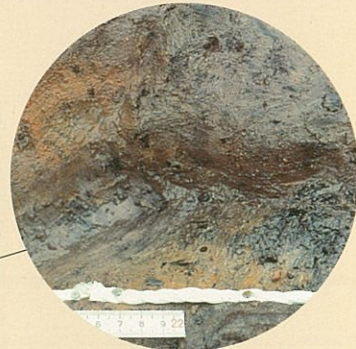
名取川と広瀬川にはさまれた低地に広がる遺跡です。昭和63年の調査で、生々しい樹木とともに、たき火のあとや石器など、約2万年前の旧石器時代の人々の生活のあとが見つかりました。当時の環境を知るうえで世界的にも重要な発見となりました。



調査したところ



石器のでているようす



炭が出ているようす

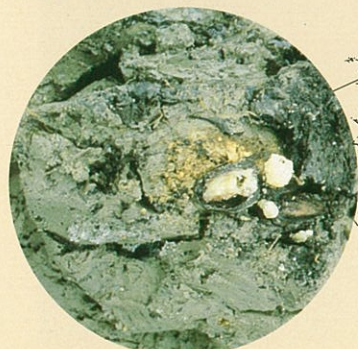


松ぼっくり

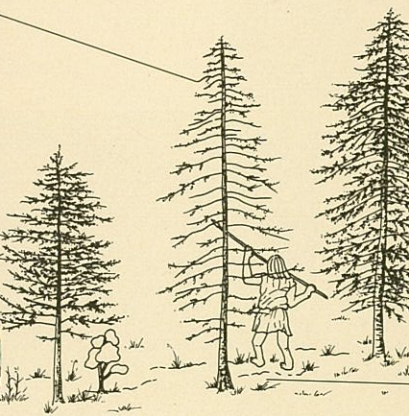
発見されているものからえがいた
2万年前の富沢の風景



樹木のようす



チョウセンゴヨウ



石器の出ているようす



ケヤマハンノキ



2万年前の
ミスクサハムシ



今の
ミスクサハムシ
(体長7mm)

昆虫



シカのなかまのフン

◆土の中の情報

富沢遺跡の土の中には、花粉や珪藻^{けいそう}などのように、目には見えない小さなものがたくさん含まれています。これらは当時の環境を知るうえで、重要な情報を提供してくれます。



2万年前の地層

花粉分析

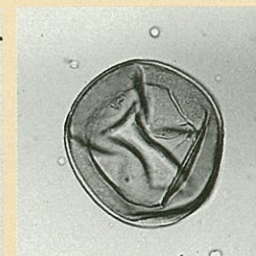
花粉の大部分は地上に落下します。花粉の形は植物によって異なっているので、土の中に含まれている花粉を調べると、その当時の植生^{しょくせい}がわかります。

珪藻^{けいそう}分析

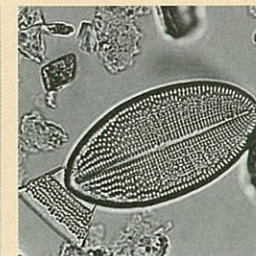
珪藻^{けいそう}は川、海などに生息する単細胞の植物プランクトンで、それぞれ異なった特徴をもっています。土の中に残された珪藻^{けいそう}を調べることで、当時の地形のようすを復元することができます。



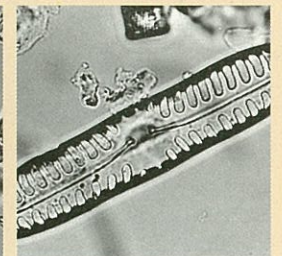
トウヒの仲間花粉



カラマツの仲間花粉



水生の珪藻



陸生の珪藻